

## スunks研究会の発足にあたって

伊藤正裕（東京医科大学 人体構造学講座）

このたび第1回「スunks研究会」が本解剖学会学術集会とリンクして開催されることとなり誠にありがとうございます。

スunksに関する発表は以前より継続的に磯村源蔵先生を中心とした研究グループの発表がなされてきており、特にそのリンパ性器官に関する研究発表には個人的に注目してまいりました。しかし、どこか自分とはまだ距離感のある動物。しかし、磯村先生と懇意にしている宮木孝昌をわが教室の助教授に3年前に迎え、また、スunksの腓臓を一貫して研究してきた易 勤を助手として昨年迎えたことにより、徐々にこの食虫目が身近な実験動物となってまいりました。

インターネットを覗くと、「スunksは系統発生的に胎盤を有する哺乳類の始祖なのだ」とあります。すごい……。 「陰嚢はなく精巣は腹腔内に位置する」という個人的に気になる記載もありましたが、これも系統発生的に深い意味をもっているようです。また、何よりも驚かされたのは、「三木成夫」と「田中康一」というわが国が誇る形態科学の両泰斗がこの動物に注目してきたという事実です。

この興味深い哺乳動物を研究する人々が一堂に会する機会をつくることで今後ここから様々な真実が明らかになっていく予感がいたします。本研究会発足のお祝いを申し上げますと同時に本会の今後の発展を心より祈念いたします。

2006年3月21日